

手先の動きと子どもの感情 ⑩

清水エミ子

◎ 早生まれ児と、おそ生まれ児の指先の反応の比較

四月生まれ児と、三月生まれ児の指先の反応

「ゆみこちゃん早くしなさいよ、いつでもいつでもおそくてさ、どうしてなの、ずるいよ」

「かっちゃんてさ、いうのははいけどさ、やるときにはいつでものんびりしてるのね。ふとってるからじゃないのに、どうしておそいのか、手をみせてみな、そうか、ちよっとちよっちゃんのかな」

こんなことがたびたび自由なあそびの中で聞かれたのだ。

こんなことを聞いてから、子どもたちの行動・特に指先の動きをみつめてみると、友だちに、のろい・はやくして・ときいそくされている子どもたちは、生まれ月のおそい、早生まれの子どもたちに多いように思われてきた。

はじめは、偶然・ではないか、とも考えたり、経験の差が手先の反応に表われているのではないだろうかとも考えた。しかし、今まで指先をみつめてきて何か思いあたるような感がするので、いくつかの実験場面から、生まれ月における手先の反応を比較してみることにしてみた。

実験場面の設定

・ 特別の活動の場では、自然の状態が表われにくいので、自然の状態と比較できる活動場面をえらぶことにした。

日常自然の状態で、くりかえし活動しているような活動と場を、用いることにした。

ナワトビあそびがさかんに行なわれている時期であったため、

1 ナワトビを取り上げる時の手先の反応

自由な時に、自由に絵を描く時（自由絵）、

2 自由画帳に絵を描こうとする時のクレヨンをえらび取る手

先の反応

紙をいじったり折ったりして開放されている時、

3 折紙を折っている時（折りはじめ）の指先の反応

これらの活動は、子どもたちがくりかえし自由な活動の中で、みずからの気持でえらび取って行なう行動と活動であるので、自然のままの状態が表われるであろうと考えて設定した。

実験①

◎ ナワトビを取り上げる時の指先の反応比較

① 女児 三月生まれーゆみこ、四月生まれーたかよ

男児 三月生まれーかつとし、四月生まれーよしあき

◎ 保育室の床に、ナワトビのナワ（ひとりとび用）を、とびよいようにならべておいて、「よーいどん、でナワトビをしてみせてね」と呼びかけて、ナワトビをさせた。

◎ ナワトビのえをつかむしゅん間の手先の反応を観察した。

◎ 考察

女児

写真①ー④

四月生まれのたかよは、何のためらいもなくサッとナワトビの

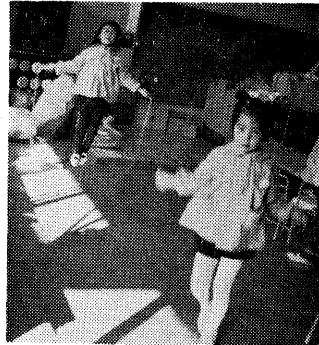
写真①



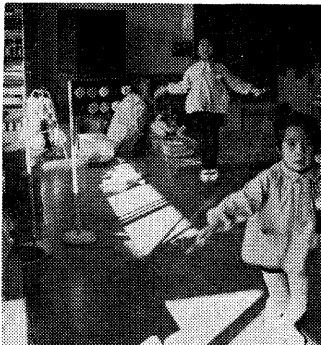
写真②



写真③



写真④



にぎりわしづかみにした。(両手を一度に)

三月生まれのゆみこは、指先に力が入り、指をびんどのばし、腰まで高くしてナワトビのにぎりを指先でさわってみて(ふれてみて)からゆっくりとにぎっていった。

やや右手の方が早く、左手の方がおそくなっていた。(右ききである)とぶとぎのスピードも、たかよ(四月生まれ)の方が早かった。

男児 写真⑤―⑦

四月生まれのよしあきは、ひざをちょこっとまげるようにしてナワトビのにぎりをわしづかみにし、とぶ前にもう一度小指、薬指、中指を、開いたりにぎったりしてにぎりなおし、持ちやすい

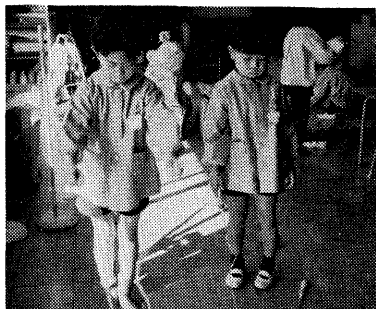


写真 ⑤

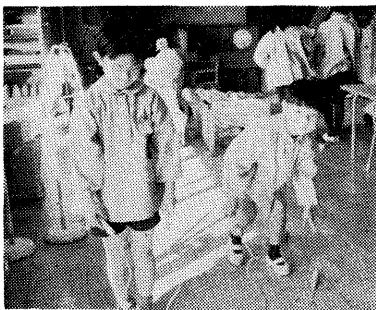


写真 ⑥



写真 ⑦

ように持ちなおし、すぐにとびはじめた。とぶときは、左手がややおくれるような状態でとび、ナワがつつかかかると、ナワのにぎりを持ちなおしてとびなおしていた。

三月生まれのかつとしては「ナワトビとんでみせてよ」と声をかけると、「うん」と氣がるに答え、「ぼくうまいよ、とべるものパッテンとびもやれるんだ」といばつたことをいっていたが、ナワを持つ時になると、片手ずつナワトビのにぎりに近づけ、指に力をいれてぎごちなくつかみとっている。右手が先につかみ、左手はたよりなく空にういているのだ。右手指も、にぎる前にビクビクッと動かしてからやっとなぎる、という状態で、口でいっていることと、指先の行動の、あまりにも差があるのにびっくりしたのだ。

口や顔では、自信がありそうで、何もこわがっていないようにみせかけているが、手先は全くきんちょうし、硬直してしまっている。こしまでかたくなっているようにも感じたのだ。

ナワトビをとぶときも、一回一回ナワにひっかかってしまい、手と体とのバランスを完全にくずしてしまっていた。

「あら、へんだな、とべるんだけどつかかっちゃうな、へやだどだめなんだよ先生、そとへいってやってくるね」

三月生まれのかつとしては、きんちょうすると手先が思うようにな動かなくなってしまう。ナワトビのにぎりをにぎるということひとつでも、こんなにぎごちなくなってしまうのだ。四月生まれ、一年間の生活経験は、こんなにも指先に自信として表われてくるのだなと気づき、おどろかされたのだ。

ナワトビという、体全体の運動をともなう活動の中でも、体全体から受けとる感じと、指先だけの表われとちがってきていることがわかった。(体全体より部分、そして特に指先の部分)

無意識に、ナワのにぎりをにぎる、ひろう、持ちなおす、こんなかんたんにくりかえされる活動の中の指先にこそ、真の心の表われがかくれているのだな、と感じたのだ。

心の信号が、すなおにそのままつたわっていくのが指先なのではないか、とナワトビあそびのナワを持ってどぶという動作のなかで感じたのだ。

実験②

◎自由画帳にクレヨンで絵を描こうとする時の指先の反応比較
①呼びかけ、ゆみこ(三月生まれ)が自由絵を描き出した時、四月生まれのたかよをさがして、「ゆみこちゃんとすきな絵描いてみない? 先生に描いたのみせてよ」と四月生まれのたかよに

声をかけ、となりで描くようにうながした。

三月生まれの子は保育者の呼びかけですなおな反応がなくなるといけないと考え、四月生まれをさそうようにした。(四月生まれでも保育者にいわれたことをよろんでやる子、あまりきんちょうしないで活動できる子をえらんだ)

◎クレヨンをえらんで取る時の指先、つかみとりかたの反応を比較した。

◎考察

女兒 写真⑧—⑩

四月生まれのたかよ(写真向かって右)は、すぐに「うん、かくね」とクレヨンを取り描きはじめてが、三月生まれのゆみこは、自分で絵を描こうという意思で自由絵に向かっていたにもかかわらず、四月生まれのたかよの行動より手間どってクレヨンをえらんでいる。

三月生まれは、クレヨンに手がいく前に手を組んで考えこんでしまっている。あとからその場に参加しような状態であった。手を体の前で組んで指先をしじゅうピクピクと動かし、えらぶことにまよっている表われをみせていた。クレヨンに指がいつても⑩のように指先でクレヨンの上をなぞっていて、ずっと目的の色をえらべない。三月生まれがクレヨンの上に指をのせている間に、四月生まれはさっさと動物のような物を描き出していた。

写真 ⑧



写真 ⑩

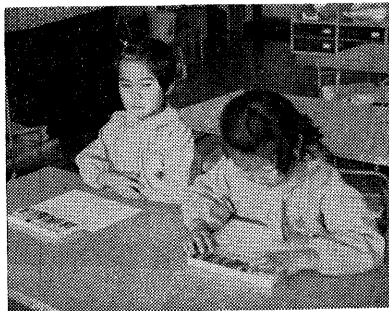


写真 ⑨

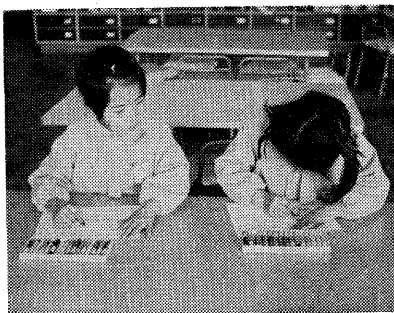


写真 ⑪



描いている途中でも、三月生まれは、四月生まれを気にするよう描くことをやめてながめていることが多かった。写真⑨クレヨンの色のとりかえも、四月生まれはちょっとクレヨンケースをみて、のぞみの色を取って描くが、三月生まれは、いちいち指先でなげたり、あれこれとまよって次の色をえらんでいた。これは、ゆみこひとりの特徴、くせではないかと思われたので、他の三月生まれも実験してみた。

やはり、一本一本のえらびに時間がかかるしクレヨンの上に持って行く指先はこうちよくしたり、おちつきなく動きどおしであったり、と反応にはっきりと差があった。そこでゆみこ独自の反応でなく、生まれ月のおそい子どもたちの経験の未熟からくる指先の表われであると思われるのだ。

男児 写真⑫―⑮

三月生まれのかつとしは(写真向かって右)

「ぼく新幹線描こうかな」といいながら、ひとりでクレヨンを取り出して来て描き出そうとしたので、「かっちゃん、この机でかいてもいいわよ、あかるいから。同じグループのよしたかちゃんよんでいい?」と聞いてみた。「いいよ、まつもとくんおいでよ、こいよ」と自分できそったので、私はやれやれとみていた。ふたりはクレヨンのフタを取るのと同様だった。

がクレヨンをえらび取る時は女兒と同じように三月生まれのか

写真 ⑫

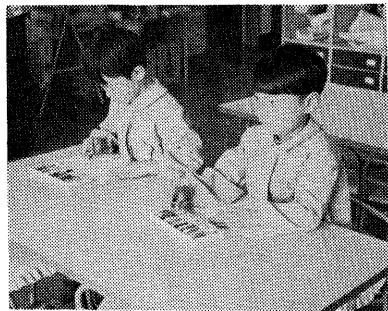


写真 ⑬

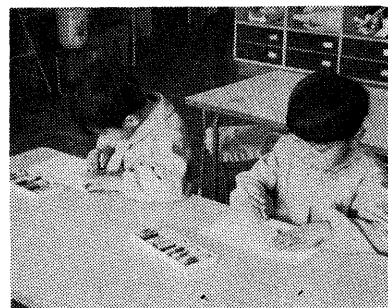
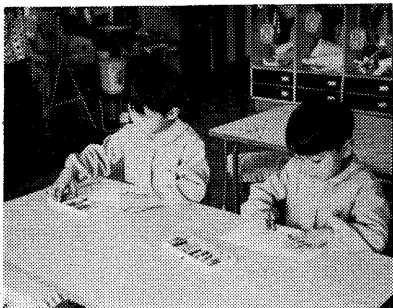


写真 ⑭



写真 ⑮



つとしては、まごまごというより、指先に力が入り、取ろうとするクレヨンの上で、指先がその色を取ってもいいのだという確認の合図のような動き、コチョコチョというような動き方をしてから、クレヨンを取り描き出していった。新幹線ではなく、いぬのようなものをかき出していった。

四月生まれは、クレヨンの位置を自分できめてあるのかと思われるような早さでクレヨンを取るし、色の確認のようなことはしていない。

四月生まれは、まずつかんですぐ描く。描こうとして紙にクレヨンがさわった時、はじめて色のちがいに気づくというような描き方なのだ。女児の四月生まれのたかよもそうだったが、男児のよしたかもそうで、「あっ、赤だと思ったら…いいや、ここくろにしちゃえばいいや」というようなちようしで、指先もためらわなくなっているのだ。

三月生まれのかつとしては、描いている途中でも指先がぎこちなくなり、クレヨンをにぎり持ちにしてしまい、どうやってクレヨンを紙につけて描こうかとまどい出していた。

こんな時でも、顔の表われはしゅん間のきんちようで消えてしまい、あとは「どうしようかな、ここつなごうかな」と何か考えているようなことばがとび出してきたくらいで、外見ではあまり困っていないのだ。しかし指先は、まったく困ってしまい、にぎ

りばしのようにクレヨンをにぎって、その指は力が入って、どうしてよいか助けをもとめている。こちこちになっていて、中指・人差し指など、ビクビクと小さくふるえているようだった。

「かっちゃん、クレヨンははなして手をハンカチーフでふいてまた持ってごらんさい、汗かいたから描きにくいのよ」と声をかけると、三月生まれのかつとしては「フーッ」とためいきをして、クレヨンを下におかずに描くように持ちなおして、次にスラスラと描き出したのだ。私が声をかけたことできんちゃんようがどけたようだった。

このようすをみて、私がカメラを向けていたり、四月生まれのよしたかをとりなりにすわらせていっしょに描かせたので描けなくなったのだろうか、特別の条件になってしまったのだろうかと考えてみたが……。

三月生まれのかつとしては、ちがう場でもこんなことをよくしていた。ハサミで切る時も、はさみをあごの下にくつつけて考え込んでいたり、はさみを開こうとする指が、力がいりすぎて開かなかったりしたことを思い出した。

自由な画を描く時でさえ、四月生まれ・三月生まれではこのように指先の表われがちがっている、反応がちがうのだから、年長児だといって四月から三月まで、一束ひとからげで一斉に活動させていたのでは、かつとし、ゆみこのような三月生まれの子は、

とまどい、指先が動かなくなり、集団や活動のグループからとりのこされてしまう。

三月生まれは、まだまだ個人指導をいねいになくしてはならない。自由な活動の中で、個の確立を目標にしてゆかなくてはならないのだと、この絵を描くようす、指先の表われをみて感じたのだ。

指先の動きや表われで、今どんな指導が必要なのかをよみとることがができる。個人で十分に指導が必要だと表わしている子、集団で十分活動できると表わしている子とを、指先からみきわめ、よみとることができないのではないだろうか。

実験③

◎紙などを、折ったりいじったりしている時の指先の反応の比較

①三月生まれ、四月生まれをいっしょに呼んでおいて、「この折紙、あげましょうか」と呼びかけてみた。

②「うん」と返事が返ってきたところで「何でも折っていいわよ、すきなようにしていいわ」と折ってみることをうながしてみた。

◎折紙を手にし、折りはじめる時の指先の表われ、反応を観察した。

◎考察

写真 男児⑩―⑪ 女児⑫―⑬

写真 ⑮

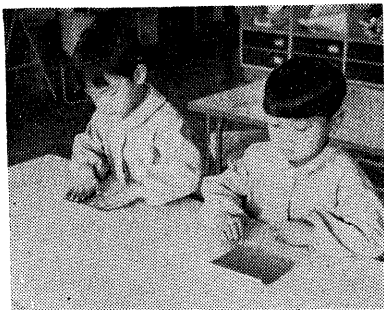


写真 ⑯

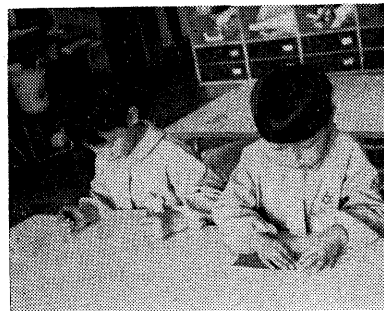


写真 ⑰

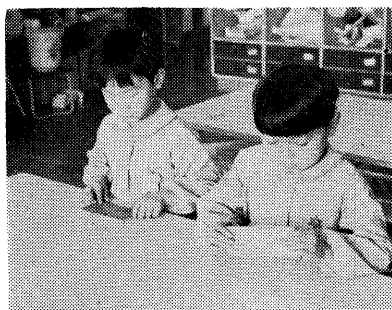
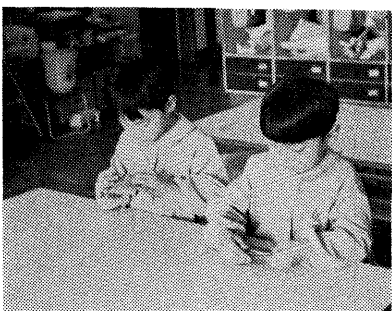


写真 ⑱



三月生まれは、手のひらをかるくにぎって、折紙はほしいが、何を折ったらよいかわからず、折ることは拒否の表われをしていた。手をにぎって体の前におき、折紙をさわろうとしなかった。折紙にさわっても、人さし指に力が入りすぎて、親指といっしょに折紙がつまめなくて、二回も三回も取りおとしていた。

男児も、三月生まれははじめにカニの足のよう折紙の上に四本の指をならべてつかみ（つまんでいるという感じ）、左右のへりを合わせていった。男児の三月生まれは、親指が拒否を表わし、人さし指となじまずにいたので、紙が人さし指と親指の間でゆらゆらゆれてしまっていた。

四月生まれは、男児も女児も、すぐ机の上で長方形に折りはじめた。指はすぐ折紙をつかみ、二枚を合わせにかかった。

五本の指がいつせいに動き出すという感じが、四月生まれの男児には表われているように思われたのだ。いつせいに、手のひら、指にスイッチが入るのが四月生まれであり、一本一本ばらばらに動き出すのが三月生まれだといってもよいような感じをうけた。

以上、三つの実験をしてみても、

◆三月生まれ、四月生まれの一年間の差を指先の表われがはっきり示していたことがわかった。どの実験でも、三月生まれは男児共に、指に力がいってしまう。これは経験の未じゆくを表

写真 ㉑

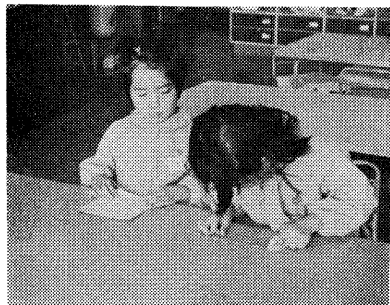


写真 ㉒

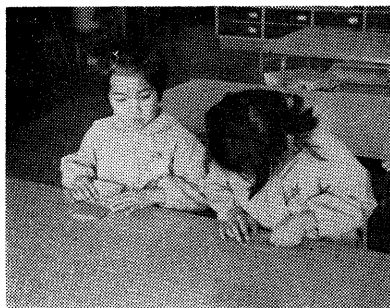


写真 ㉓

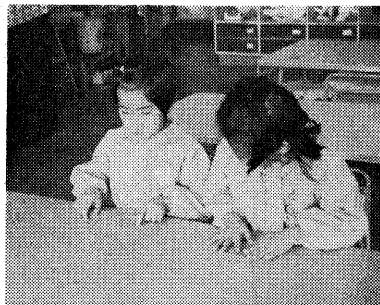
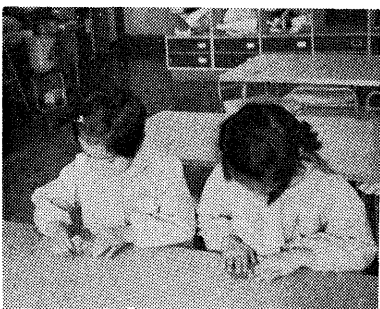


写真 ㉔



わしているのだ。

クレヨンを取る時、紙を折る時など、人さし指などは、外がわにそりかえるような力の入れ方になっているのは三月生まれであって、四月生まれは、三つの実験共に、指は手のひらの方に、まゐるみをもって動く表われをしている。まゐるみをもった指先の表われは、自信のある、そのことになっている、安心していきますという答えを私たちにつたえてくれる。

指のまがりかげん、しゅん間ののびの状態で、きんちょうの状態までが表われ、よみとれるのではないだろうか。

保育のあらゆる場で、三月生まれ、四月生まれを比較してみても、本当の指先の表われを、科学的に、心理的に観察していき、指先をみつめ、ひとりひとりの成長にまちがいのない活動の場をあたえられるようにしたいと、強く感じた。

じっとそのことをみつめ、比較することによって、表われのこまかなちがいのむずかしさと、その表われの意味するものよみとりのむずかしさと大切さを感じたのだ。

顔より、体全体より早く、しゅん間に反応する指をおいかけ、しゅん間の表われを正しくよみとるくんれんを、保育者は少しでも多くしなければならぬと思う。

(大田区立蒲田幼稚園)